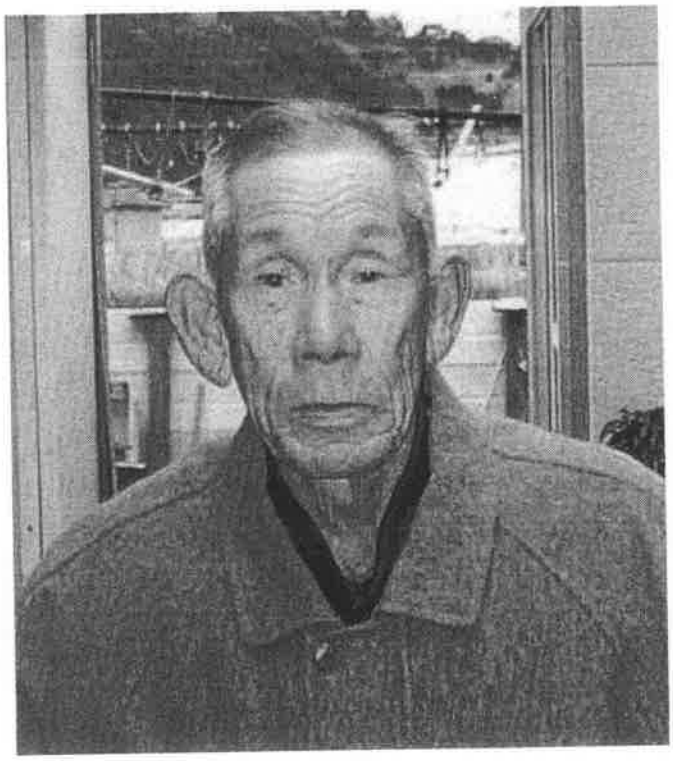
打瀬船船大工　山下　末長

地域文化活動部門



概要

氏　　名	山下末長（やました　すえなが）
職　　業	船大工
住　　所	葦北郡芦北町大字計石１７４６番地
主な活動地	芦北町

山下末長さんは、祖父、父と伝えられた技術を継承し、船大工として昭和十五年から働き始めて以来、六十五年の長きにわたり、打瀬船の建造・修繕に携わってきました。

打瀬船はおよそ四百年前に瀬戸内海で生れ、芦北には明治初期に伝わってきたと言われています。打瀬船で行う打瀬網漁は、帆に風を受けて横向きに進みながら底引き網を引いて漁をするという特色のある漁法であり、その姿は「白い貴婦人」とも呼ばれ、現在では芦北・水俣地域を代表する観光資源であり、熊本の代表的な景観の一つともなっています。

山下さんの主な活動場所である芦北町計石では、昭和二十年代には百二十隻程度の打瀬船がありましたが、漁獲量の減少により担い手が徐々に減少し、現在では二十七隻となっています。

山下さんが働き盛りのころと期を同じくして、漁船に使用される材料等の技術革新が進み、木造船と船大工が減っていきました。そのような環境になっても、山下さんは一貫して木造船にこだわり続け、現在では打瀬船の建造や修繕に関わる技術を持つ町内で唯一の船大工です。現在ある二十七隻の打瀬船も、その半数は山下さんが造ったものであり、他の船も修繕などで全て山下さんが関わるなど、文字通り打瀬船を支えてきました。

芦北町では「打瀬網漁及び打瀬船」を後世に伝承し、その保存及び安定的な継続、発展に寄与するため、平成十一年に町の無形文化財に指定するとともに、平成十二年には「芦北町観光うたせ船保存条例」を制定しています。

打瀬船の伝統的な造船技術の保存継承が危惧される中で、今後とも山下さんの更なる活躍が期待されています。

これまでの活動歴

昭和十五年（一九四〇）	父、山田次喜次郎の下で船大工の修行を始める。
昭和十八年（一九四三）	佐世保で日本海軍の木造船の建造に携わる。
昭和二十年（一九四五）	芦北町に帰郷し、打瀬船の建造、修繕を行う。
昭和二十五年（一九五〇）	結婚し、山下家の養子となる。
昭和三十八年（一九六三）	鹿児島、福岡で木造船建造に携わる。
昭和四十二年（一九六七）	津奈木町の造船所でも打瀬船の建造を行う。
※平成十一年（一九九九）	「打瀬網漁及び打瀬船」を芦北町無形文化財に指定